

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700217		
法人名	社会福祉法人元気の里とかち		
事業所名	グループホーム元気の里(おとふけ)		
所在地	北海道河東郡音更町宝来仲町1丁目4番地1		
自己評価作成日	平成30年1月30日	評価結果市町村受理日	平成30年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、町内でも最古のグループホームであると同時に、利用料も町内でもっとも低価格であるという観点からも利用しやすいと思われます。
また、建物自体は古く狭いが、かつて喫茶店だった面影も残している為、それなりの温かみや温もりを感じることができ、家庭的な雰囲気や、喫茶店のような雰囲気も味わえることが特徴的です。
町内の活動は活発で、ごみ拾いや、焼き肉等の行事や、災害時の支援等地域の協力体制もあります。
入居者様一人一人の笑顔を大切に、その人らしく過ごせるように、職員一同チームで協力しあってお手伝いさせていただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvoynoCd=0194700217-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成30年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人元気の里の5グループホームの中で最初に開設されたグループホーム元気の里(おとふけ)は音更宝来地区に以前喫茶店と住居だった所を改装して運営されています。一昨年管理者の交替が有り、法人理念、法人ケアの理念に加えて、掲げられている事業所理念を職員と共に再検討する機会を持ち、グループホーム元気の里おとふけとしてのケアの理念・行動指針として”入居者様、ご家族様のそれぞれの思いに寄り添い、慣れ親しんで来た生活のペースを大切に、アットホームな環境の中で生活ができるよう、常に思いやりの心を持ってケアを提供していきます。”を定め、介護提供の指針として目指しており、管理者、職員は常に利用者の気持ちから尊重した介護提供に努めています。管理者は、事業所運営に当たり、次代の管理者を育てたいとの思いで、行政からの情報も共有を図る様に取り組んでいます。法人として職員育成に力を注ぎ、法人主催の定期研修が年6回、不定期の研修が2~3か月毎に行われています。又、5事業所の職員で構成している委員会活動を行い、事業所のサービスの質の向上に繋げています。地域との関わりも地道に積み重ね、平成29年は班長を引き受け、町内会の一員として活動しており、散歩で挨拶を交わしたり、地域の方が、アルバイトとして参加してくれる等、地域に開かれた事業所と成っています。厨房とホールをつなぐ元喫茶店で使用されていたカウンターがリラククス効果をもたらし、管理者、職員の温かな声掛け、関わりの中、利用者、のんびりと自分らしく過ごしている様子が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を完璧に理解・実践しているとは言い難いが、町内の活動への参加を通して地域との繋がりを重要視しながら、取り組んでいます。	法人理念、法人ケアの目標、事業所独自の理念を玄関、事務所、ホール等目に見える所に掲示し共有を図っています。今年度事業所理念の再検討を職員と行い、職員の思いを込めた新事業所理念を作成しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野菜の差し入れが時々ある他、週に一度、地域の方がボランティアで訪問してくれている。29年度は町内会の班長として入居者と共に広報誌配布等の活動行い、他 夏祭り、ごみ拾い、焼き肉等行事に参加し交流している。	町内会の班長として広報紙の配布を利用者と一緒に行ったり、清掃活動や夏祭り、焼肉行事に参加しています。小学生の通学や付近の公園で遊ぶ姿があり挨拶をしてくれる子供たちとの交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内活動や運営推進会議の地域の方との交流の際に現状のお話等している。入居者の話題だけでなく介護については、地域の方の老後の不安等のお話聞かれることもあり助言することもあるが、活かしているとはまだまだ言えない状況。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、入居者状況の報告を行い、必ず意見をいただいている。こちらでは知り得ない情報も多々得られることがあり、サービスの向上に生かしている。	年6回開催している運営推進会議には家族、町内会役員、民生委員、知見者、地域包括支援センター職員が出席し、利用状況、活動、研修、事故報告を行っています。活動報告は写真を多用して解りやすく工夫しており、質問意見を得て運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月待機者状況の報告は管理者が対応、毎月の介護相談員の訪問時のカンファレンスは職員が対応、運営推進会議に議論等をさせていただいている。	介護相談員による訪問が毎月行われその都度一緒にカンファレンスを行いアドバイスを受けています。町担当者とは集団指導時や報告書提出で訪問し協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず(夜間は防犯の為に施錠している)利用者が外出する時は職員が同行している。 又法人内の研修でスピーチロックについてもテーマにあげ意識向上に努めている。	新規職員採用時には研修の中で身体拘束に付いての理解を促しています。法人各グループホーム職員で構成している事故対策委員会主催の研修会を毎年開催し身体拘束、高齢者虐待が及ぼす弊害を学んでいます。毎月開催するカンファレンスでも都度話し合い検証しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等を通して学び合い、虐待について話し合い、知識や情報の習得に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などを通し、学ぶ機会は少なく必要性について話し合う機会も少なく理解するとは言い難い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安に感じていることを確認しながら、契約書や重要事項説明書を読み、最終的にご理解・納得をさせていただいてから契約の締結している。また、改定等があった場合にも書面での説明と共に、承諾をいただき保管している。管理者が対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所自体には特別窓口を設けてはいないが、法人事務局には苦情受付の窓口を設置し、連絡先も契書に記している。又、日々の面談時や運営推進会議を通して意見・要望を伺いそれらを運営に反映させていけるように対応している	家族の訪問は多く、訪問時には日頃の様子を伝えていきます。状況によっては通院や美容室に出掛ける事をお願いすることもあり、家族と共に利用者を支え何でも言って頂ける関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは日々の雑談や職員会議、年2回の個人面談の際に話し合いをしている。代表者とは年度末に面談を行っている。適格に検討を行い、可能な内容であれば、意見を反映させている。	職員の意見や提案をする機会は、毎月の会議、年2回の管理者による個人面談、代表者の個人面談と多く設けられており、運営に反映しています。管理者による個人面談の時には能力開発シートを活用し評価を行い資質の向上に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や人事考課制度の活用。又事業所内で研修や会議、外部の研修に参加した際には手当が支払われる仕組みがあるが、やりがいや給料水準について不十分と感じている職員もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年6回、法人内研修を実施している。また外部の研修に参加の案内、希望あれば勤務の調整等対応している プリセプターやOJTシートを活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所の男性職員を対象に「男子会」として数か月に1度集まり交流している 又、地域の短大の介護課卒業生の職員は短大開催の介護っていいなプロジェクト会議に参加 同業者との交流や意見交換を行っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前には必ず本人・家族と面談を実施し情報の収集を行い職員に情報を周知している。入居後は積極的にコミュニケーションを図り本人の想いに耳を傾けたり、サービス担当者会議を通して職員で話あっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時には様々な事項を確認して、ご家族との信頼関係を構築できるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時の段階で、ご家族と入念に話し合い、ご家族とご本人の意向を確認している。その旨を入居前に職員達へ周知し、支援・対応できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることは自身でしていただき、掃除や簡単な調理作業等、一緒に行うよう努めている。また、ホーム全体を「家」、と捉え家族のような関係を構築しなければならないという意識を持って、接するようになっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を面会時や電話にて随時お伝えしている。行事にや外出にお招きし参加していただくときもある。本人様の心身の状態の安定にはご家族の協力も必要不可欠であるということをお伝えし、協力しながら関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活用品や食品の買い物の際一緒に出掛けたり近所の馴染みの美容室への移動の支援やドライブで本人の馴染みの場所に訪れたり、馴染みの知人が面会等行えるよう支援している。	家族の協力を得ながら、昔馴染みの知人が訪ねて来た時には歓迎したり、行きつけの美容室への送迎や買い物に出掛ける等利用者のこれまでの関わりを大切に支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常会話の中で入居者同士の共通点や趣味・興味の持てる話題を提供し少しでも関りが持てるような話題作りをしている。又日々のレクリエーションや外出等を利用し、利用者同士が交わる機会を設け支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで契約が終了した方から特段相談を持ちかけられたという実績は無いが、問い合わせ等は数回ありの際は随時説明を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好みの飲み物の提供 食事以外は自室でゆっくり過ごしたい方等その方それぞれのペースで過ごせるよう日々本人からの意向を伺ったり、思いの把握に努めサービス担当者会議や日々の申し送りにて情報を共有している	管理者、職員は利用者のこれまでの生活歴を把握し、日頃接する中で会話や様子から暮らし方の希望や思いを把握し、職員間で共有し、一人ひとりの希望の実現に向け検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、生活歴、趣味・嗜好、性格、既往歴、他施設での経過等々を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL状況や、精神状態等々に関して、記録に残し、毎月の会議の中で話し合い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議と合同にモニタリングを行い、その結果をまとめ、管理者が作成している	利用者、家族の意向を確認し、毎月のカンファレンス時に職員間で検討し、現状に即した介護計画を作成して、定期的に見直しを図っています。ケア記録の他にバイタルチェック表を記入しており、バイタルチェック表の下段にはケアプランが記入され、実施状況が分かり、介護計画作成に活用されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録とバイタルチェック表を使用し申し送りや職員会議を通じて情報を共有している それらを活用しながら介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様なニーズに対応するため、都度検討し、必要時には、既存のサービス内容の変更も柔軟に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内の畑で畑作業行っている。地域の町内会活動にも参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に協力していただきながらも、往診を利用されている方や馴染みのかかりつけ医に受診の際は職員が同行し支援している方もいる。また、緊急時や週末等がかかりつけ医以外の受診をする際は都度家族と相談しながら対応している	受診はこれまでのかかりつけ医との関係を大切にして家族の協力も得て支援しています。町内には訪問診療が可能な医療機関が多数あり状況に応じて往診を受けており、週1回の訪問看護や個別に訪問看護を利用している利用者もおり、適切な医療が受けられる様支援を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者全員対象として週1回訪問看護に来ていただいている 経過報告や相談を行い助言や対処やケア方法聞きを支援してます 又個別に訪問看護を利用されている方もいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話や面談、当ホームで作成しているフェイスシートを使用しながら情報交換や相談を行い関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向は伺っている。面会時に本人様に変化あれば経過報告行い、必要時話し合いの場を設けている。重度化はしていないが医師からの助言によつてのタイミングで説明したかたもある。	利用契約時に重度化した場合や看取りについての指針を説明し、理解を得ています。時期が来た時には医療機関、家族、事業所で連携をとり看取りの介護計画を作成しながら全体で取り組んでおり、職員は外部研修を受講して看取り介護の理解を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED・心肺蘇生法の講習を、消防署にて消防職員から受けたり、新人研修では緊急時の対応について講義もうけている。不安に思っている職員も		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。今年度は火災想定と避難所までの移動を想定しておこなった。 地域協力して頂いての訓練をしばらく実施していないため再度確認や実施の必要がある。	年2回の避難訓練を実施しています。本年度は水害、火災によるそれぞれの避難訓練を行っており、町から指定された避難所に実際に避難を行い課題を検討しています。その他ライフラインの停止に備え、発電機、ポータブルストーブ、備蓄に取り組んでいます。	対策マニュアルや訓練は進んでいますが、消防署の指導や地域の協力を得た訓練はこれからであり体制構築を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の個性や性格を把握し尊重した声掛けを行うよう心掛けている。	車椅子使用時にはドアの前に衝立をし、利用者の羞恥心に配慮した介助を行っています。また、言葉遣いにも注意を払い、接遇委員会による研修を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寝ていたい、どこかに行きたいなど希望や思いはしばしば聞かれている 食事の時間をずらしたり、可能な限り実現できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況を見ながらではあるが、気晴らしのため、ドライブや散歩等の外出をすることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に入居者からの訴えは聞かれないが、個人の誕生日会や外出・行事の時には本人のお気に入りの服を着ていただくよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物と一緒に出掛けたり、畑の野菜の収穫を一緒に行ったり、毎日の会話の中で何を食べたいか伺ったりしている。食器洗い、食器拭き、お茶くみ、調理補助等を状況を見ながら実施している。	献立、調理は職員が利用者の好みを考慮しながら行っています。リビングとキッチンが対面であり、会話をしながら準備や後かたづけを利用者も参加して行い、楽しい食事に成る様取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を確実に把握するために、表を作成し管理している。食事量が少ない方に医師の処方の栄養補助飲料提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではないが、支援が必要な入居者には毎食後必ず重層水を使用し舌磨き、口腔内清掃、うがいの介助を提供している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行くことのできない方、尿意や失禁のわからない方は時間の感覚をみながら、トイレの声掛けや誘導している	排泄記録はメモを付けながらパソコンに記録してパターンやサインを把握し間隔を考慮しながら失敗の少ない介助に取り組んでいます。夜間はポータブルトイレを使用する方もおり状況にあった支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師の助言や処置の協力も得ながら下剤の服用間隔、オリゴ糖入りヨーグルトの提供、ファイバーや朝のオリーブオイル等飲食物の工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望をする入居者も特に居ないことから、以前から曜日や時間帯を決定し対応している。	週2回程度の利用者が多く、希望で同性の職員が対応しています。気分を変えるために入浴剤を使用したり、声掛けのタイミングや工夫などで誘い入浴を促し取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の能力に合わせ、休息を取る必要性のある方には、状況を見ながらではあるが、休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力薬局あり 相談したり助言を受けながら会議内での議論の中で、副作用や経過、留意点について必ず話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションの提供、買い物支援、畑仕事や工作、書道等、個々の趣味に合わせた活動を積極的に実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に散歩や買い物に出かけたりお祭りや紅葉を観に出かけて季節を感じられる支援を行っている	近隣公園へ桜を見に行ったり、ドライブがてら紅葉見物に外出しています。利用者の体調等を考慮しながら、お祭りに出かけたり、スーパーマーケットや回転ずし等に出掛け、気分転換を図った支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを管理させていただき、必要時や訴え時には、職員が買い物や、その後の出納帳の記入等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをしたいという訴えは今までなかったが、電話に関しては訴えがあれば都度対応させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒に繋がる恐れのある物や危険なもの(漂白剤等)は近くに置かないようにしています。また掃除チェック表を使用しまんべんなく、掃除ができるよう対応しています。建物の構造上リビングと廊下の温度差を生じることがあります。なるべく均一になるよう暖房の調整を行っています。トイレ前には空気清浄機を設置しています	嘗ての喫茶店のカウンターが残されており、内側にはキッチンが作られ、料理中でも利用者と会話ができる様に成っています。中央には大きいテーブルがあり全員での食事や懇談場所と成っています。加湿器、空気清浄機で湿度が管理され快適な空間をつくり居心地良く暮らせるよう取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適格に入居者同士の人間関係を熟知し、食事席の並びの選定、ソファの位置等には配慮している。共用空間では狭くならないよう通路の確保しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の面談で馴染みの家具があれば用意していただくようお願いしている。	居室には物入れが上部に造られており、利用者は使い慣れたベットや箆笥類の家具を配置しています。家族の写真や絵を飾り過ぎしやすいように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名札を付けたりトイレ場所を記した張り紙で分かりやすく工夫しています。		